

29年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は4社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
入荷動向	国産材	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	外材	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	外材	△ 25.0	△ 25.0	0.0

・国産材ラミナの入荷状況は3カ月連続減少。外材は12月の減少から1月、2月は横ばいに。

・国産材ラミナの在庫動向は3カ月連続横ばい推移。外材は12月、1月の減少から横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
国産材	12.5	0.0	0.0
欧州材	50.0	0.0	0.0
その他	50.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷価格は保合。

・欧州材、その他は強含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・入荷はスギ、カラマツともに大きな増減はない。当月は出荷量が若干落ち込んだ分在庫はやや増加。

(ラミナ価格動向)

・スギ、カラマツともに横ばいとなっている。

29年12月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
生産動向	国産材	△ 12.5	△ 25.0	△ 12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	50.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	25.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の荷動き動向は、国産材は3カ月連続減少。WW集成管柱、RW集成平角は3カ月連続横ばい推移。米マツ集成平角は12月の減少から1月、2月は横ばい推移。

・出荷動向は、国産材は12月、1月の横ばいから2月は減少に。WW集成管柱は3カ月連続減少。RW集成平角、米マツ集成平角は12月の増加から1月、2月は横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	25.0	0.0	0.0
RW集成平角	50.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	50.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・構造用集成材の出荷価格動向は、スギ集成管柱、ヒノキ集成柱・土台、カラマツ集成土台とも横ばい。

・WW集成管柱は保合、RW集成平角、米マツ集成平角は強含み。カラマツ集成平角は横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・スギ集成管柱は一定量の出荷量。カラマツ製品は市況が良くないため、全体的に受注量が若干落ちている。しかし、輸入材の値上りにより土台を中心に引き合いが出てくる可能性がある。出荷はスギ、カラマツともに一定の受注はあるものの、不需要期になってくること、時期的要因で生産量が減少することも重なって、やや減少となる見込み。輸入材の値上がりや物不足の影響で国産材の需要が出てくる可能性がある。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、大手ハウスメーカーやビルダー関係の相場は変わらず横ばいとなっているため、当面值上りはない。カラマツ集成土台は、基本的に横ばいであるが、新規顧客開拓については輸入材との競合になるため、採算面を見ながら価格設定している。カラマツ集成平角は、基本的に横ばいであるが接着剤の値上がり分を一部価格転嫁する予定のため、やや上昇する部分もある。